



新しい年を迎え、1ヶ月がたちます。園での子どもたちは、2学期にしていた遊びの続きで、積み木で坂道を作ったり、おうちごっこをしたり、コマを友だちと回して見せ合ったり、戸外ではたこあげをしたり、色々な鬼ごっこをしたりしてすごしています。

引き続き新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症には気をつけ、手洗い・うがいを丁寧に行ったり、水分補給をしたり、生活リズムを整えるなどして、元気にすごしていけるようにしたいですね。ばら組もラストスパート。短い3学期ですが、1日1日を大切に、一人一人が友だちとすごす楽しさや、心地よさを味わい、楽しんで園で生活できるようにしていきたいと思います。



### 3学期もいっぱい遊ぼう！



「次、〇〇くん」  
すごろくをしたり、  
食べ物のカードで神経衰弱を  
したりしています。

「いーち、にーい…」  
大なわとびは自分たちで回したり、  
回っている縄の中に入って  
いって跳ぶ、“はいり跳び”に  
挑戦したりしています。



“回すところを、おうちの人に見せたい！”  
とこまを持ち帰ることもありますので、見て  
あげてくださいね。こまは、翌日また持たせ  
てあげてください。



「できた～！」  
友達と見せ合ったり、色を塗ったり、  
だれが長く回せるか勝負したりして  
楽しんでいます。こまを入れる箱も画用紙で  
作りました。

「できるかなあ」  
積み木をつなげて長い坂  
を作ってボールを転がし  
ます。最後まで転がると、  
とっても嬉しそう！



いつもは、長い積み木を坂  
道にしているのですが、こ  
の日は壁（赤い矢印のとこ  
ろ）ができていました。子  
どもたちに聞くと、ボール  
が横に転がらないようにし  
てあるとのこと！

何度も同じ遊びをする中  
で、どうすればうまくいく  
のか考えているんですね。



### 「ことは、うしどし」

今年の干支「丑」の飾りを作りました。自分の名前と西暦  
(2021)は、自分で書いたり、先生と一緒に書いたりし  
ました。

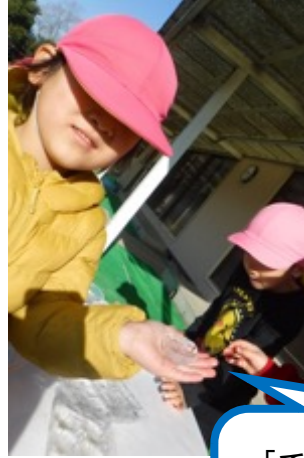
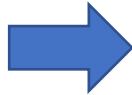
楽しいことがぎゅ〜とつまった1年になりますように…  
また、おうちに持ち帰ろうと思います。



○いつも廃材を集めていただきありがとうございます。たくさん集まってきていますので、一度ストップしたいと思います。また必要な時がきましたら、お知らせさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

## 氷できるかな？

今、ばらぐみでは氷作りをする姿があります。きっかけは、大きい組さんが氷を作っていたのを見せてもらったことからでした。



大きい組さんの真似をして、カップに水を入れておいたら…

「できとる！」  
翌日見てみると、氷ができていました。やったー！

氷ができた日、「もっと作ろう！」と砂場の型抜きやバケツ、カップ、色々なものに水を入れて、再び氷作り。大きい組さんの花が入った氷を見せてもらって同じようにしよう！と花びらや木の实を入れたものも作りました。↓



さて、翌日…天気は雨、氷はできていませんでした。水の入った容器を覗いたり、指でついでみたりして「まだ、できてない」と子どもたち。この日は残念でしたが、氷ができる日を楽しみに容器をおき続けています。

## 氷を作る中で…

教師 「いつできるかな？」  
子ども 「明日！」  
子ども 「明日かたくなって、その次にもっとかたくなってってなる」



教師 「どこに置く？」  
子ども 「こういうところ」と言いながら影のところを指差す  
教師「こういう暗いところがいいんだ」  
子ども「そうやで。ここはちょっと（日差しが）当たるとるやろ。だからここ（影のところ）」

子ども「あったかくても、風は寒い。  
風は冷たいの」

教師「あったかくても風は冷たいと  
どうなるの？」

子ども「凍る」

教師「凍ると思うんだ」

子ども「風ふいてると寒いって思うで  
しょ？」



教師「どうやったら氷ができ  
るんだろうね」

子ども1「冷蔵庫の中！」

教師「冷蔵庫の中か～」

子ども2「でも、冷蔵庫のなか汚  
れるよ」

みんな「う～ん…」

大きい組さんに「雨の日にはできない  
よ」と言われて…

子ども「でも、雨の日寒かったのにね  
え」



子どもたちからは、色々な声が聞かれました。

水を入れて触ったり、「給食食べたなら見に行こ」と

様子を見に行き、「まだ、できてないな」という姿もあり、どんな時に氷ができるのか、ど  
うすれば氷ができるのかがはっきりわかっているわけではないようです。

でも、なんとなくではあるけれど、寒いと氷ができる、影のところの方が寒いと思ってい  
ることも子どもたちの姿から感じられます。

氷作りをするなかで、子どもたちに“こういう条件がそろえば氷がで  
きます”という知識を伝えたいわけではありません。今は、「なんでだ  
ろう」「ふしぎだなあ」「どうしたらいいんだろう」ということを感じたり、  
自分が考えたこと、感じたことをそのまま表現したりしている姿を  
大事にしたいと思っています。この経験や体験が学ぶ力につながって  
いくと思っています。

さあ、次はいつ氷ができるでしょう？おうちでもお子さんのお話を聞いて  
みてくださいね！



子ども「風船に水を入れて、吊るしておく氷のボールができるんだよ」

子どもたち「えー！」「ボール?!」

教師「やってみる？」

子どもたち「うん！」

ということで、テラスに吊るしてあり、登園するとプニプニとさわって確認し  
ています。できるかどうか、私も楽しみです！